

「服育」の理念をベースに、伝統技術を

活かした京都流エコ学生服

有限会社 村田堂

取締役 長屋博久さん



長屋博久さん

「服育」に取り組む学生服の老舗

仕立て直しと繊維リサイクルができる京都流エコ学生服「ecoさくら」。成長に応じて胸・腰回り、袖丈を約6cmサイズアップすることができます。また、不要になった制服は回収して繊維リサイクルを行い、再資源化して利用するという環境にも配慮された学生服です。

「ecoさくら」を開発したのは、創業120年の歴史をもつ学生服専門店「有限会社 村田堂」。明治10(1877)年に京都初の紳士服仕立て店としてスタートし、明治22(1889)年より学生服の製造・販売を手がける老舗です。同社取締役である長屋博久さんは、「学生服=教材」と考え長年にわたり『服育』活動を行っています。服育とは、衣服を通じて、社会性を身につけたり、地球環境などを考えようという取り組みです。「子どもたちに正しい着こなしとともに、着る意義や目的を伝えていきたい」と語る長屋さん。勤めていた繊維メーカーを辞めて家業を継ぐことになったとき、プロ意識を持って学生服に携わりたいと学生服本来の意味を探究、そして出会ったのが服育だといいます。学生服を提供するだけでなく、服育サポートとして中学校や高校へ出向き、服の役割や着こなしをテーマにした出前授業も行っています。



「服の役割」をテーマに出前授業を行う長屋さん

服育の理念を生かしたエコ学生服

長屋さんが服育活動を始めたのは、サラリーマン時代から携わってきた繊維の知識をもとに取り組んだ環境学習がきっかけです。

現在、国内で出される衣料品のゴミは年間126万トン。一人あたり年間約10kgの服を捨てていることに。その80%が再利用されことなく、焼却・埋め立て処分されています。この現状を通して、「もったいない」の心を育む服育活動を進める一方で、自分たちにできることはと考え、着目したのが京の着物文化が育んだ「仕立て直し」の知恵です。仕立て直しとは、着られなくなった着物をほどいて作り直すこと。昔の人は着物を仕立て直してできるだけ長く着用し、着物として使えなくなると布団地にしたり、おむつや

環境対策

雑巾にするなど、とことん使う習慣がありました。この最後までモノを大切にす文化、モノの「いのち」を全うさせる技や知恵を現代の学生服にも取り入れようと開発・事業化に取り組んだのが、京都流エコ学生服「ecoさくら」です。



京都流エコ学生服「ecoさくら」

伝統の技が生きる新・京都ブランド

特に中学校の男子生徒は入学から卒業するまで身長が約20cm伸びるため、学生服の買い替えが必要となり、3年間着られる制服を望む保護者の声が多いといいます。また、入学時に大きすぎるサイズを購入すると、格好が悪いからと着くずしの原因にも。このような理由から、成長してもサイズ補正ができるよう新たな縫製パターンの作成に着手しました。従来のパターンでは対応に限界があるため、縫い代を大きくとるなど、成長対応型の特別な縫製パターンが完成。これによりブレザーの脇と袖丈、スラックスの腰回りを従来の2倍にあたる約6cm、2サイズ大きくすることが可能に。また、スカートのウエストにはワンタッチアジャスターを採用し、中心から左右3cmずつサイズ調節ができます。さらにネクタイは西陣織、ブレザーやシャツの裏地には友禅柄を用いるなど、京都の伝統産業の技も積極的に取り入れました。裏地のプリント生地は、伝統文様と校章をアレンジしたオリジナルデザインです。

平行して取り組んだのが、繊維リサイクルのシステム構築です。着古して不要になった学生服は同社で回収し、リサイクル工場で再資源化。手袋や自動車の内装材など新たな製品として再利用するシステムを作りました。



服のハギレから作られた京こま

課題は繊維リサイクルのシステム形成

「ecoさくら」の開発は、伝統産業と先端産業との融合により新しい商品開発を進めるソフィア伝産研究会の「エコテキスタイル分科会」としての取り組みです。その関係からファンドの情報を入手し、環境対策に役立つ事業が支援の対象になると知り応募、採択されました。助成金は主に開発費用とホームページの増強に活用。コンセプト、機能、商品紹介、使用部材の紹介を明確に伝えると同時に、歴史コーナーやブログも充実させ、より多くの人々に興味をもってもらえるよう内容を一新。「学生服の村田堂」のイメージ強化にもつながりました。

平成21(2009)年11月、「ecoさくら」の発表にあたり京都文化博物館で記念イベントを開催。開発商品のお披露目のほか、学生服の歴史や服育活動についての展示も行い、多くのマスメディアに取り上げられました。また、京都産業エコ推進機構が主催する「京都エコスタイル製品」に認定されたほか、平成22(2010)年秋にはニューヨーク、ファッション工科大学美術館で開催された展示会に出展するなど、国内外で高い評価を得ています。

今後の課題は、衣服の循環型社会を形成すること。そのためには、「リサイクル用途の開発」、「回収システム」、「消費者意識の向上」の三つが必要だといいます。なかでも消費者意識の改善は、地域に根ざして活動してきた同社だからこそ力が発揮できると考え、そこに力を注ぐことを決意。服のハギレを使った京こま作りをはじめとする環境をテーマにしたワークショップを精力的に開いています。「ものを作ったり楽しみながら学ぶことが、服のリサイクルや環境保全について考えるきっかけになれば」。服育活動を通して消費者の意識を変えようという決意にも似た長屋さんの思いに、力強さを感じました。

事業概要

有限会社 村田堂

<http://www.muratado.co.jp/>

代表：長屋吉彦

業種：繊維製品小売業（学生服販売）

創業：明治22(1889)年 設立：昭和39(1964)年

住所：〒604-0812

京都市中京区高倉通二条上る天守町744

TEL：075-231-1593 FAX：075-231-1888